

World Watching 138

ワールド・ウォッチング



仙崎 達治

国土交通省港湾局振興課
課長補佐

極東ロシア 港湾事情 日本海沿岸域の 更なる交流・交易の 促進に向けて



極東ロシア港湾位置図



はじめに

今般、わが国と日本海を挟んで対岸に位置するロシア極東地域の港湾開発の状況を調査する機会を得た。極東ロシア港湾については、2005年12月号において（社）日本埋立浚渫協会の安間氏から報告されているが、本報告では、その後の変化、最近の取り組みを紹介しつつ、環日本海の交易促進に向けて述べることにしたい。



極東地域開発と各主要港湾の状況

ロシア極東地域は、リーマンショックにより一時的な景気落ち込みが見られたものの、同国で初めて開催される2012年のAPEC首脳会議を控えて多数のインフラ整備プロジェクトが進められており、民間企業の投資、エネルギー資源の確保、今後の国際物流への影響などの面から注目を浴びる地域となっている。訪問時には、玄関口となるウラジオストク空港からAPEC会場となるルースキー島にかけての道路整備（ウラジオストク金角湾横断橋とルースキー島架橋の2大橋梁プロジェクト）が急ピッチで進められていた。

APECに関する同地域への総投資額は、6,629億ルーブル（約2兆円）と一箇所への集中投資としては異例の規模であり、2014年ソチオリンピックと並びロシア国家の威信をかけたプロジェクトとなっている。

また、同地域では資源開発に伴い、石油、石

炭といった貨物の輸出入量の増加が見込まれており、その対応に向けた港湾整備構想が進められている。

●ウラジオストク港

ウラジオストク港は、ロシア最大の船社であるFESCO社が提供するコンテナやROROサービスを通じ、わが国との関係が深い。この8月には、FESCO社が同港の主な運営会社であるウラジオストク商業港（株）の株式の100%を取得し、コンテナターミナル、多目的ターミナル、旅客船埠頭など計17バースを管理運営する実質的な同港の港湾経営主体になっている。同港では、今後増加が見込まれるコンテナ貨物、穀物、石油等を取り扱う施設の増強プロジェクトが計画されており、今後、シベリア鉄道との連絡改善や荷役機械の機能強化の加速が期待される。

2010年のウラジオストク商業港の総取扱貨物量は、690万t（対前年比11%増）となっており、こ



写真1 金角湾横断橋建設の様子

の内、コンテナ取扱貨物量は、2010年に33.8万TEU、2011年上半年には19.5万TEUを取り扱うなど増加傾向である。

また、ウラジオストク港の旅客ターミナルは、シベリア鉄道の終着地としても有名なウラジオストク駅と極めて近接している特徴があり、視察時には、同港と境港を結ぶDBSクルーズフェリーや大型クルーズ船（ダイヤモンド・プリンセス）の接岸が確認された。

●ボストチヌイ港

ボストチヌイ港は、かつてわが国の経済協力で開発された港湾である。同港に引き込まれているシベリア鉄道の支線が最近単線から複線に強化されたとのことであり、同港の貨物量取扱増加に向けた対応が進んでいる。同港は、極東ロシア最大のコンテナターミナルを擁し、同ターミナルを運営するVSC社は、外資（ドバイDPW社）の資本参画（25%）を受け、2012年までには荷役機械の改善等によりコンテナ取扱能力を年間110万TEU（現状の2倍）に拡大し、更に2020年までに岸壁の増深等により年間220万TEUに拡大することとしている。

VSC社のコンテナ取扱貨物量は、2009年に大きく落ち込んだものの、2010年には25.4万TEU（対前年比59%増）を取り扱っており、貨物量回復の兆しが見える。

多目的ふ頭を運営するVP社では、石炭取扱施設の強化が検討されている。また、同港に延伸される石油パイプラインを活用し、新たに石油化学工業の立地も計画されている。

同港に隣接するコズミノ湾では、石油積出基地が整備されている。



写真2 ボストチヌイ港コンテナターミナルの様子

●ナホトカ港

ナホトカ港は、ナホトカ商業港（株）が、石炭ターミナルを運営しており、陳腐化した荷役機械の更新を行い、石炭の取扱能力強化を図る方針とのことである。

2年前にウラジオストクに立地した自動車メーカー「ソレルス社」では、韓国の浦項港（わが国の港湾でないのが誠に残念だが）にロジスティクスセンターを整備し、自社の専用岸壁との間に就航している週2便の専用コンテナ船により部品の調達を行い、将来的には日本との取引も視野に入れているとのことである。このように、ロシア極東地域の視点は、環日本海側地域を向いているといえよう。

各訪問先では、日本海側各地域の港湾関係者（港湾管理者、自治体）の訪問状況についての発言もあり、改めて日本海側各地域が極東ロシア地域とのつながりを強化すべく取り組んでいることを認識した。

今回の視察を通じて、極東ロシア港湾のコンテナ貨物やバルク貨物の取扱機能強化等、物流効率化に向けた意欲的なプロジェクトを確認することができた。また、ウラジオストク港などは、港湾の運営が民営化されており、物流サービス改善に期待を抱かせるものがあった。今後、シベリア鉄道のサービスが向上すれば、より一層わが国との交易が促進されるものと考えられる。

このため、これまでに構築された交流関係を活かしながら、国営ロシア鉄道や税関当局に対し、官民連携によるわが国関係者の声を束ねた改善提案を行い、如何に実現に向けて進めていけるかが課題になる。

その際、シベリア鉄道の利用貨物に、わが国貨物が占める割合は、中国、韓国に比べて少なく、今後わが国からの改善提案を実現するためにも、わが国とロシア間の貨物量を確保するなど、一定の発言力確保に向けた取り組みも必要となろう。

今後、極東ロシア港湾及びレールの先につながるユーラシア大陸の発展可能性も踏まえ、わが国と対岸諸国との交易・交流促進に資する日本海側拠点港の形成につなげていきたい。

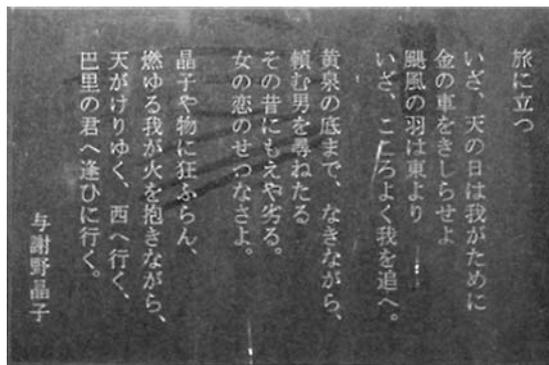


写真3 与謝野晶子がパリにいる夫鉄幹を訪ねるためにウラジオストクに立ち寄った際に詠んだ詩の記念碑（極東連邦総合大学）